

古い文献に書かれた 「田島町」

第1版 2024年8月

第2版 2026年3月

田島町町会

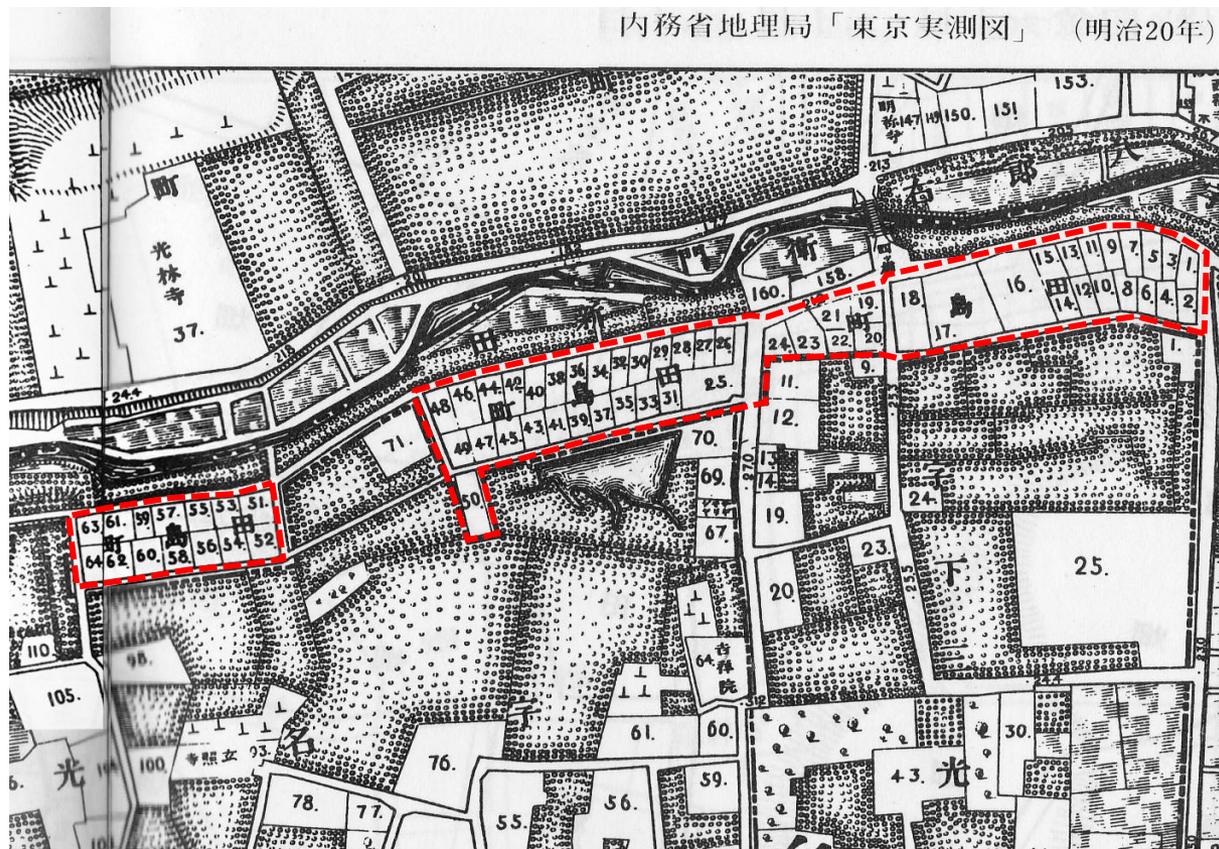
はじめに

- 私たちが住む「田島町」は、江戸時代・正徳～享保年間（1711～1736頃）に成立し、それ以降の古地図、古文書、歴史書などに度々登場しています。
- また田島町町会については、大正12年（1923）の関東大震災からの復興を目的に地域住民が団結して結成されたもので、それ以降の町会活動についても公文書に残されています。田島町町会は戦後の一時期、「田島町睦会」の名で活動し、昭和36年（1962）の会館落成を機に再度名称を「田島町町会」に戻したようです。
- 今回、国立国会図書館のデータベースから、田島町に関する記録を検索し、田島町町会所蔵の資料とともに、年代順にまとめてみました。田島町の長い歴史を知る上での参考になれば幸いです。

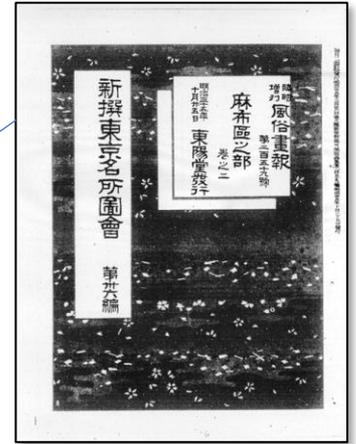
古い文献に書かれた「田島町」(1)

1887

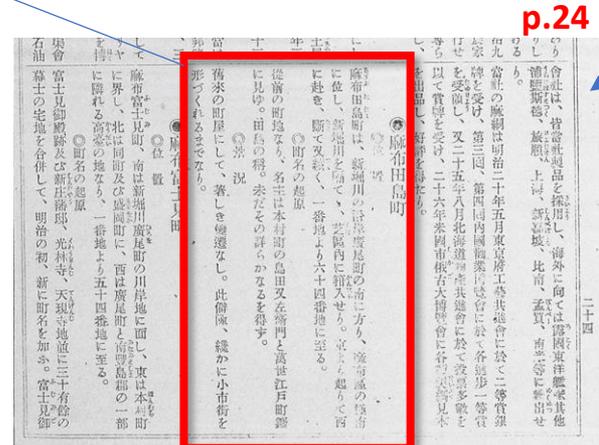
内務省地理局「東京実測図」(明治20年)



「新撰東京名所図会」(明治35年)



[国立国会図書館所蔵]



p.24

●麻布田島町

◎位置

麻布田島町は、新堀川の沿岸広尾町の南に方り、麻布区の極南に位し、新堀川を隔てて、芝区内に嵌入せり。東より起りて西に赴き、断つて又続く、一番地より六十四番地に至る。

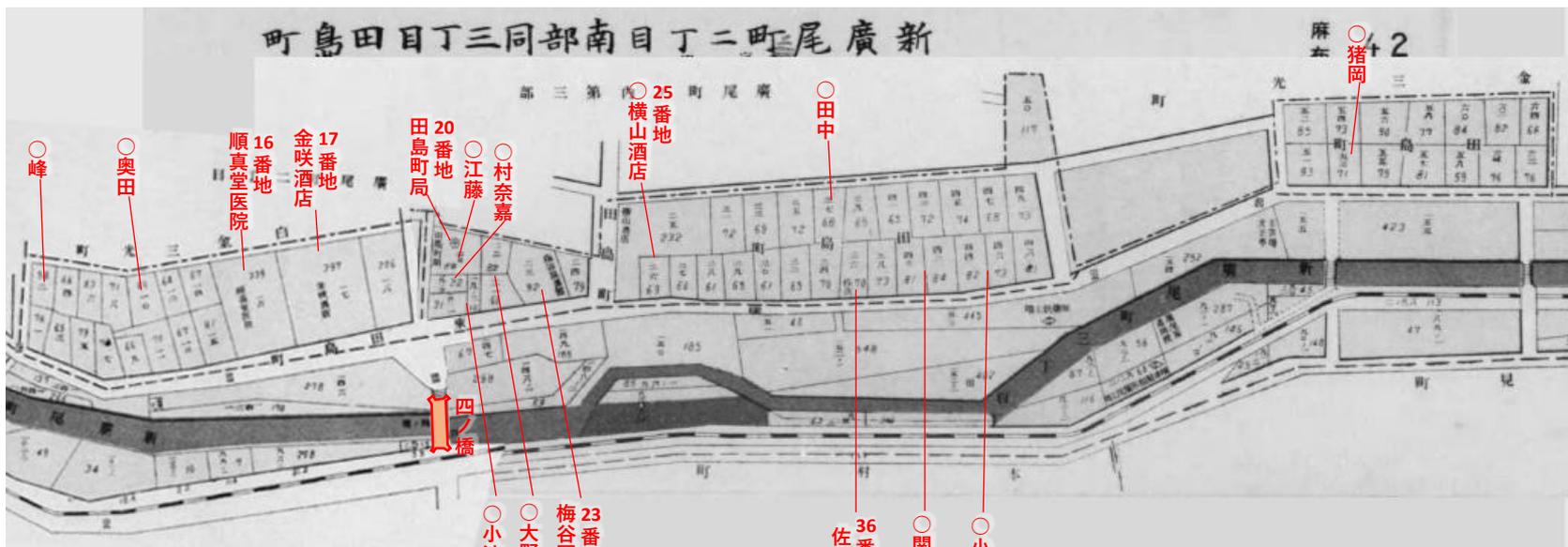
◎町名の起源

従前の町地なり、名主は本村町の島田又左衛門と萬世江戸町鑑に見ゆ。田島の称。未だその詳らかなるを得ず。

◎景況

旧来の町屋にして、著しき変遷なし。此の僻陬、わずかに小市街を形づくられるまでなり。

「東京市及接続郡部地籍地図」(大正元年)



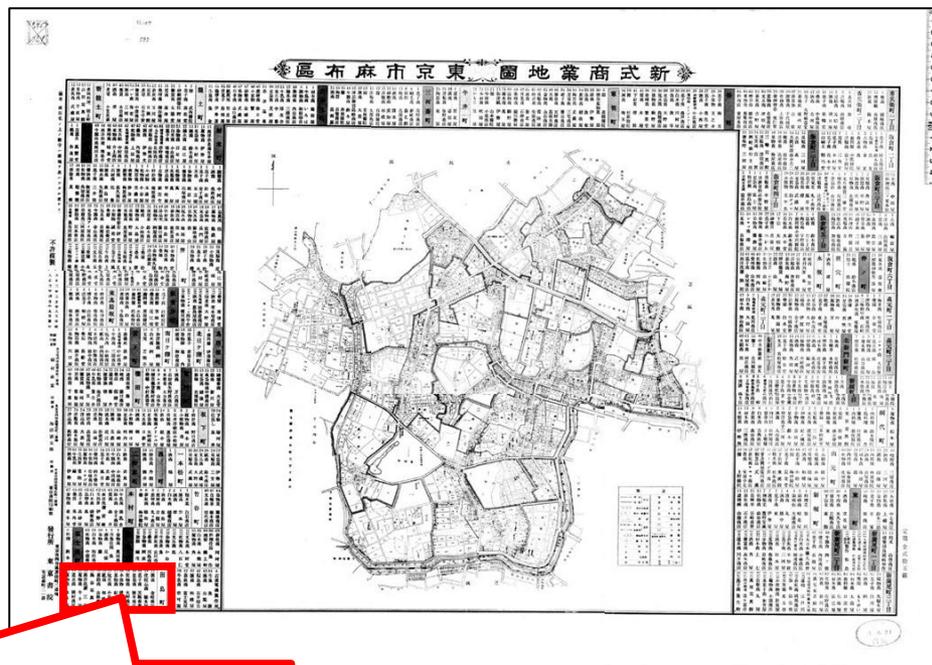
○=田島町在住地権者 (地籍台帳から転記)

[国立国会図書館所蔵]

古い文献に書かれた「田島町」(4)

1914

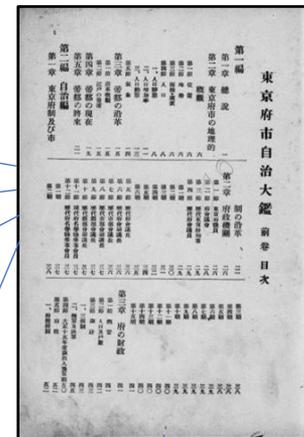
「新式商業地図-東京市麻布区」(大正3年)



[国立国会図書館所蔵]

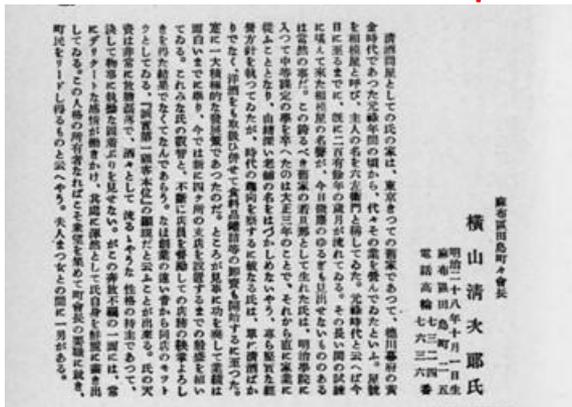
- | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|------|-------|-----|------|-----|------|------|------|------|-----|------|----|-----|
| 24 | 23 | 23 | 22 | 20 | 20 | 19 | 19 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 17 | 田島町 |
| 履物商 | 道具商 | 西洋洗濯 | 梅谷写真館 | 書籍商 | 紙商 | 玩具商 | 果物商 | 小間物 | 乾物商 | 足袋商 | 菓子商 | 化粧品商 | 酒商 | |
| 水戸屋 | 岡村商店 | 三谷 | 山根書店 | 相模屋 | 小泉商店 | 紀州屋 | 岡村商店 | 大野商店 | 酒井商店 | 天狗商会 | 橋本屋 | 金咲商店 | | |

「東京府市自治大鑑」(昭和元年)



[国立国会図書館所蔵]

p.119



横山清次郎氏 (田島町25番地)

p.95



田中貞氏 (田島町37番地)

p.120



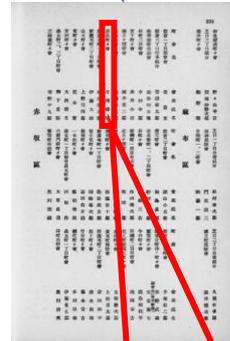
吉原市之進氏 (田島町15番地)

p.106



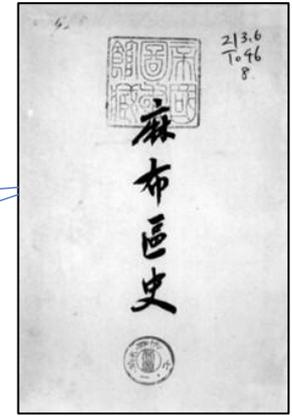
鴨島義英氏 (田島町1番地)

p.222

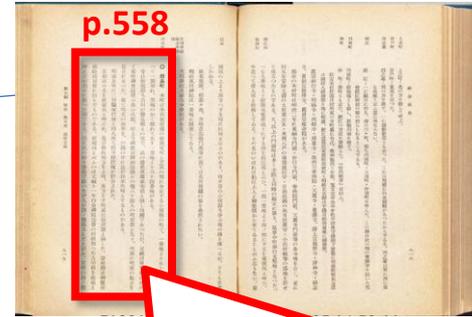
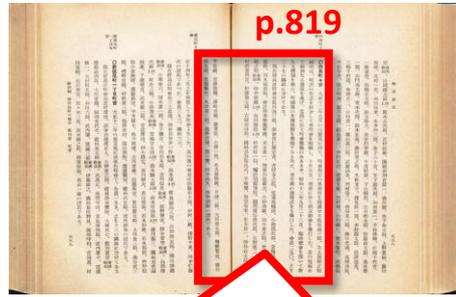


町会名	田島町町会
会長氏名	片岡静輔

古い文献に書かれた「田島町」(7) 1941
 「麻布区史」(昭和16年)



[国立国会図書館所蔵]



江藤? ← 仁藤(*)

田島町 本町は本区最南辺の新広尾町と芝区の間、に介在する小面積の町で、一番地より五十番地に至って一応切れ、飛び地のごとく離れて五十一番地より六十四番地がある。

昔は新堀即ち古川が豊島郡との境で、この辺荏原郡麻布領と称し田圃であったが、元禄以後、町屋の起立を見るに至った。従って町名の由来を、田んぼの中に島ができた町とするものがある。

明治五年に三田亀塚代地と西久保天徳寺総代地が併合された。

当初は小名を新堀向と呼ばれ、のちは俚俗西方を上町、東方を下町あるいは箒屋舗と称した。箒屋舗は御霊屋掃除頭屋敷にちなんだものである。新堀向というのは元禄十一年白金御殿造宮の折、堀割った古川筋を新堀と呼んだがために起こった称である。因みにこの時十番までで終わった汐入が四ノ橋まで及んだという。当時の四ノ橋は長さ十間幅二間半ほどの板橋であったが、今はずっと短くなっ

田島町町会 大正十二年九月の大震災によって、町会創立の重要性を痛感せる弘田義三郎及び土屋新之助両氏は、町民の有志を糾合して本町会を組織し、十月五日、南座において創立総会を挙行した。その後極めて順調なる発達を遂げ、当路において町会整備の企てるや、昭和十三年九月二十三日、臨時総会を開いて新たな体制を整い、町関係の各種団体を整備するとともに、青年団の発団式をも挙行した。会員二五〇、これを二七の隣組に分けている。

(*)

現在役員は町会長弘田義三郎、副会長仁藤定吉、吉原市之進、幹事高橋、小池、常務理事大山、川久保、会計理事斎藤、末友、理事川島、小杉、山口、青山、大貫、坪井、山川、杉村、嘱託須藤、顧問横山、友野、田中、村奈嘉、伊藤、古岡、隣組長加藤、手塚、能登、正木、神谷、大平、吉澤、湯崎、藤、小澤、名古屋、日沖、大川、醍醐、塩田、佐藤、久保、高野、濱口、田中、仲野の諸氏である。

古い文献に書かれた「田島町」(8) 1941 「市政週報」(昭和16年)

p.353



[国立国会図書館所蔵]

一組一朝一鍬一汗の奉仕・町会会館で冠婚・葬祭

(麻布区) 田島町会

努力十五年の結晶

如何なる場合といえども、本会の名をもって、政党
政派の運動に関係することを得ず、

かつての町会役員が選挙運動などに没頭していたこ
ろ、当時常務理事であった現町会長弘田義三郎氏は、
町会規約の内に特に一項を加えて、町会の内紛となり
やすい問題を抑えた。その為かどうか、町会の内部は
常に春風駘蕩として今日に至っている。

町会長の弘田氏は、震災の時、初めて田島町会が創
立され、常務理事となつて以来十五年間、孜々営々と
して町会のために働いて来た人である。

氏は町会役員と共に、町会内のあらゆる冗費の節約
に留意し、一枚の紙、一本の鉛筆も大切にし、ガリ版
など、自身で刷りながら専らその金を積むことに努力
してきた。それは田島町会に会館を建てようと発心し
たからである。

爾来十五年間、町会長以下役員の実力と精神が結晶
して、町会館建設の運びに至り、昭和十二年にめでた
く竣功した。工費一万円木造二階建て、五十七坪の建
物で、二階の会議室には有馬大将の忠孝の軸を掛けた
床の間があり、四十畳敷の立派なものである。

町会会館で結婚式

この会議室を利用して、町会は生活改善に乗り出し
た。町会常会や隣組常会に利用するのは勿論、広く会
員に開放して、結婚式にも使い、法事、会合、人寄せ
などに利用し、冗費節約に役立つことは所期の目的以
上である。この会館を人生のスタートとし、この神前
に結婚式をあげた夫婦がすでに二十五組にも達してい
る。町会役員十五年を努力が、このような成果を上げ
たのである。感慨察するに余りあるものだ。

町会費一口二十銭で、比較的恵まれない町会である
しかし、それを補って余りあるものは会長以下役員
の努力である。

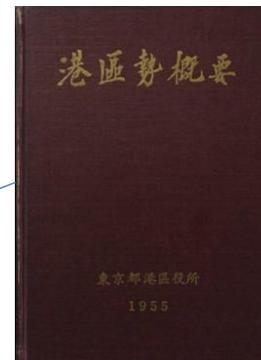
町会の仕事が増え、会長は歯科医さんであるが、患
者に迷惑をかけることばかりであるが、町会関係のこ
とには何をおいても出ていく。これが本当の滅私奉公
であり一億一心であると、欣然と語る。(以下、略)

古い文献に書かれた「田島町」(9) 1955 「港区政概要」(昭和30年)

p.406

町 名	事務所 A 所在地	代 表 者	設 置 地 域	会 員 数
森元町 町会	麻布森元町1-27 中村方	中村 雄一	森元町1-25-91番, 27番	280
大 沢 町 会	* 三河台町10 鈴木方	鈴木 正夫	六本木町, 三河台町	300
今井町 町会	* 今井町28 石川方	石川 惣治	今井町全域	125
南目+窪町 町会	* 南目+窪町12 小林方	池田 昌一	南目+窪町全域	189
北目+窪町 町会	* 北目+窪町14 神田方	馬 敏 一	北目+窪町全域	150
村木町 町会	* 村木町22 深尾方	深尾 茂男	村木町全域	165
板田 町 会	* 板田町27 水本方	水本 義夫	麻布板田町全域	285
櫻町 町 会	* 櫻町21 中島方	福原 孝 一	櫻町全域	300
三軒家 町 会	* 三軒家町41	塚 正 恒	三軒家町全域	550
仲井 町 会	* 仲井 8-新井方	新 井 治 郎	仲井1番~54番 (31番~45番を除く)	203
麻布防犯協会・火災 予防協会南界支部	* * 125	藤 原 達 八 郎	* 122番~150番 31番~45番	110
新 井 町 会	* * 新井方	藤 本 一 次 郎	* 61番~66番	200
上 野 町 会	* * 68 山田方	山 田 清 太 郎	* 55番~60番, 67番~103 番, 112番, 120番, 121番	320
出尾町 町会	* 出尾町97 池井方	池 井 太 郎	出尾町全域	500
宮 村 町 会	* 宮村町63 隈田方	隈 田 賢 二	宮村町全域	452
本 村 町 会	* 本村町63 森方	森 田 修 三	本村町全域	500
田 島 町 会	* 田島町24 三浦方	三 浦 美 雄	田島町全域	120
新 井 町 会	* 1-112 岡村方	岡 村 昇	新井町1, 112番, 114 番	35
新 井 町 会	* 2-105 鈴木方	鈴木 真 真	* 2丁目7番~116番 129番~146番	140
新 井 町 会	* 3-152 岡部方	岡 部 宗 大 郎	* 3丁目80番~95番 152番~165番	220
富 士 見 町 会	* 富士見町49 柴田方	橋 本 文 治 郎	富士見町1番~53番	270
新 井 町 会	* 新井町4 宇賀神方	宇 賀 神 金 四 郎	新井町1番~13番	227
竹 谷 町 町 会	* 竹谷町1 大橋方	藤 部 貞 次 郎	竹谷町全域	300
東 町 町 会	* 東町29 小池方	小 池 武 男	東町全域	171
山 元 町 町 会	* 山元町55 池田方	池 田 角 大 郎	山元町全域	185
新 下 町 町 会	* 新下町25 藤崎方	藤 崎 新 大 郎	新下町全域	110
新 代 町 町 会	* 新代町8 池田方	池 田 信 吉	新代町全域	220
田 町 6, 7 町 会	新 井 町 7-1 柴崎方	柴 崎 田 町 7 日 全 城	田町6, 7丁目全域	219
田 二 町 町 会	* * 2-3 福田方	福 田 昇 男	* 2丁目全域	38
田 一 町 町 会	* * 1-4 桑村方	桑 村 義 郎	* 1丁目全域	69
福 吉 町 町 会	* 福吉町1 菅井方	菅 井 七 司	福吉町全域	360
倉 町 町 会	* 倉町33 粟地方	粟 地 山 三 郎	倉町全域	314
田 町 3, 4, 5 町 会	* 田町5-15 小野方	小 野 義 三 郎	田町3, 4, 5丁目全域	209
一 ツ 木 町 町 会	* 一ツ木町31 戸田方	戸 田 誠 二	一ツ木町全域	578
佐 馬 町 町 会	* 佐馬町1-3 高山方	高 山 平 次 郎	佐馬町1, 2, 3丁目全域	202
新 町 5 丁 日 会	* 新町5-24 石渡方	石 渡 秀	新町全域	252
中ノ町 町 会	* * 4-5 井口方	井 口 信 雄	新町4丁目中ノ町全域	263
新 三 町 町 会	* * 3-14 藤野方	藤 野 勝 司	* 3丁目全域	168
新 二 町 町 会	* * 2-4 矢野方	矢 野 謙 太 郎	* 2丁目全域	56
新 一 町 町 会	* * 1-4 藤内方	藤 内 幸 一	* 1丁目全域	68
青山 2 丁 日 会	* 青山南町2-15 阿武方	阿 武 國 次	青山南町2丁目全域	290
青山 4 丁 日 会	* * 4-3 渡寿方	渡 寿 節 吉	* 4丁目全域	340

名称	田島町睦会
所在地	麻布田島町24 三浦方
代表者	三浦美雄
設置地域	田島町全域
会員数	120



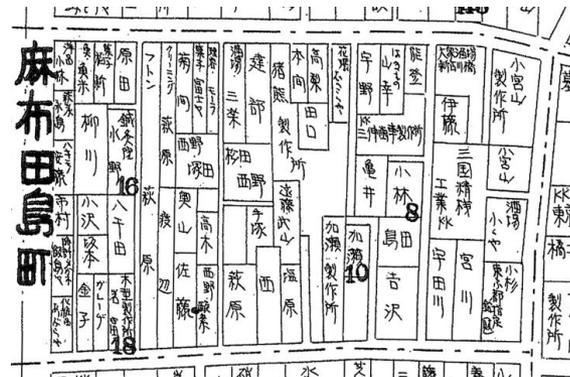
[国立国会図書館所蔵]

古い文献に書かれた「田島町」(10)

「住宅案内図帳」(昭和34年)

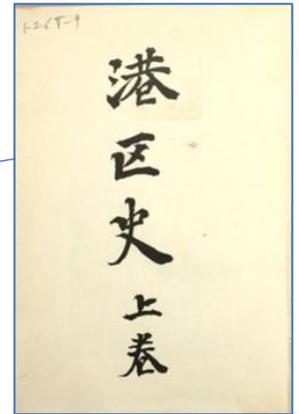
1959

[国立国会図書館所蔵]



古い文献に書かれた「田島町」(11) 1960

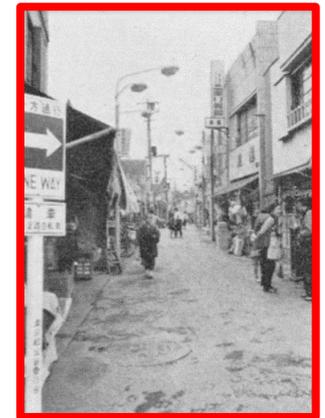
「港区史」(昭和35年)上巻



[国立国会図書館所蔵]



麻布田島町 古川南岸の芝地区に食い込んだ町で、荏原郡阿左布村のあき地であったところが、元禄から享保(一七一六〜一七三六)にかけて幕府御諸請役や増上寺御霊屋御掃除頭その他の拝領町屋敷となった。このころは新堀向うと俗称したらしいが、近傍に三田亀塚の代地二ヶ所、西久保天徳寺領屋敷があるのを合わせて田島町を名乗ったという。そのころ周囲はなお田であったから田の中の島のような町との意味だという説があるが、後世の付会らしい。このころから間に武家屋敷があつて飛び飛びに町屋であったが、今日でも二つに分かれているのは、一つの町としては珍しい。正徳三年(一七一三)麻布一帯の町屋が町奉行支配となったときに、この町も市中に列せられた。里俗に西部を上町、東部を下町または箒屋敷(御霊屋掃除頭にちなんだもの)と称したそうである。前掲の新堀向うの称は古川の辺りが、元禄十一年(一六九八)から舟入となり新堀と称せられたから、その向うの意味である。なお、当時古川は今の新広尾町が湿地でまだ川敷のうちであったから、四の橋はこの町からかかっていたのであった。維新後にも町域に変化なく、町況も旧来の町やのままあまり変わらなかつた。小住宅がわずかな市街をなしていたが、その後、白金三光町の町況と同じく、小工場などの多い町になって今日に至っている。ただ四の橋に通ずる通りはいわゆる近隣の日用に應ずる商店街としての活況がみられる。



「田島町会館落成に際しご挨拶」(昭和36年)

三浦美雄会長(当時)

(前略) 戦禍によって失ひしましたものの一つに私共の田島町会館がございました。

(中略)

戦後私共はその焼土と化した会館跡に立って夢を会館復元に託し、先ずは土地の確保からと、当時借地であった地所「五十二坪七合五勺」を某篤志家のご厚意により前会長故横山清次郎氏より譲受け町会の所有と致しました。されど会館復元には多額の資金が必要な事として整地こそすれ、其の後十有余年間は祭礼用の諸要具の置場に又夏季児童の幻灯会会場に、予防接種の会場等の使用に供した程度にとどまりました。運営資金に事欠く町内会の事とて幾たびかあの土地を売却して資金に充当したらとの、誘惑もございましたが、当初の目的たる会館復元の日までと歯を食ひし限り、何とかやりくりをして誘惑と闘って参りました。

(中略)

：ぜひ地所を町会より区へ譲渡して呉れぬかとの交渉を再三に亘り受けました。私どもに貴重な唯一無二の町会の財産の事とて鳩首協議検討して居りました折も折、四之橋通り入口の店舗が売りに出ているとの話を耳に致しました。もし出来ることなら会館として絶好な場所でもあるし、その購入資金に：土地売却の金額を充当できれば、幼い児童のための遊園地は区の所有となっても今の儘の形で残る事とて、大変結構な事であるとの結論に達し直ちに運動に着手いたしました。

(中略)

：関係者の献身的な努力が実を結び、関係各方面に対する誠意ある運動が功を奏し、区の：土地購入価格を大幅に引き上げ、満足とは申せませんが、所用の店舗の地所家屋の購入金額並びに改造に必要な補修費に該当する金額：を受領することに成功いたしました。併し会館として必要な諸什器等の購入費を満たすまでには至りませんでしたので町会役員融資のご厚志に縋り、ご寄付によって整えました本日六月二八日芽出たく落成式を挙行する運となりました。

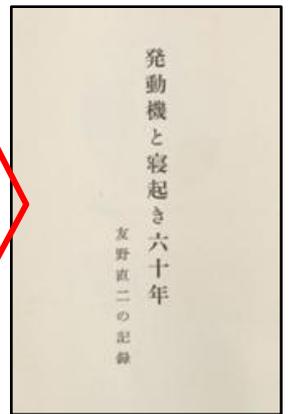
(後略)

古い文献に書かれた「田島町」(13) 友野鉄工所社長 友野直二氏

「大衆人事録 第16版全国篇」 1953 (昭和28年)

友野 直二 友野鐵工所社長 東亞
港區高濱町七 歷明治四十一年工業專
修大機械科電氣科卒同四十三年中大外語
專科卒昭和八年麻布區議に當選副議長就
任同十一年六月東京府會議員當選同十二
年麻布區會議員再選區會議員となり同廿二
五年再び東京都議會議員となり同廿二年
任期満了尙明治四十四年友野鐵工所を創
立し發動機の製作に従事翌年事業經營を
改組社長に就任今日に至る現機務友野鐵
工所社長理事東亞氣化器製作所社長東京内
燃機協議會會長日本發動機會副會長同榮
信信用組合理事等先に昭和十五年帝國發明
協會より發動機發明に關する優等賞及同
十八年紺綬褒章を受け昭和六年今上陛下
國策獎勵の恩召により紫山御用船三
浦丸に同社製發動機を採用同廿四年同御
用船再建造に際し再度用命を受く 翌日
暹宗 暹純日本趣味刀劍類 暹妻とみ明
三三 蕨縣江見町川名家出身 長男直久
天一〇日本大學卒友野鐵工所設計課長同
取締役 同妻いく子昭二秋田縣橫町湯
澤高女卒同地妻封家小山八郎八女 孫
法子昭二三 二男尙天文一四日大工科卒
フレンドモーター社長(小型發動機製造)
二女妙子昭二都立六高女卒 三男工司昭
四横濱高工専門校卒 長女和子天小南品
川杏林堂病院小川五月醫師(日大醫學部
卒)の妻

「発動機と寝起き六十年-友野直二の記録-」(昭和37年) 1962



[国立国会図書館所蔵]

天皇陛下の海洋生物のご採集は、今日では世界的にも有名である。その御座船の発動機のご用命を一度ならず二度までも承ったのが友野直二氏である。まことに発動機や冥加というべきである。

御下命の最初は昭和六年の春で、東京麻布の四ノ橋電車停留所前に工場があった。社主の友野直二氏はご下命の光栄に感激し、四十二歳の情熱を傾けて、ご用命の発動機の謹製に当った。編者が初めて友野氏にお目にかかったのは、丁度その頃であった。

あれから算えても三十有余年の年月が過ぎてゐる。今日、友野氏は第一線から退き、悠々自適、好きな漢書をひもとき、刀剣を鑑賞し、折に触れては社寺古跡に杖をひくなど、古武士的な明け暮れである。

しかし、自ら「発動機と寝起きを共に六十年」と術懐するごとく、友野氏の脳中に去来するものは、今でも「石油発動機」の映像ではなからうか。

今日、船用電気着火機関の創始者と評される友野氏である。この創始者が自分の体で綴った歴史の記録は尊いものである。

「貴方が、石油発動機の製造に、永い一生を打ち込まれた動機は、一たい何でしよう」「それはね、私の父が石油発動機を使っている、故障ばかりで、ほとほと手を焚いているのを、子供ながら見ていた。早く大人になって何とか手助けをしてやりたいものだと思つたね」

古い文献に書かれた「田島町」(14)

1963

「田島町町会会員名簿」(昭和38年)



[田島町町会所蔵]

発刊のことば

麻布田島町々会長

三浦 美雄

この度田島町会員名簿が装いも新たに発刊のはこびを見まして、今日皆様のお手元にお届けできますことは誠に喜ばしいことであります。

伝統ある田島町睦会も、昭和三十六年六月田島町会館の落成と共に名称も田島町町会として再発足いたしました。その間町の発展と同時に会員数も増加の一途をたどり、また若干の異動等もありませんでしたので新しい名簿の作成を必要とされておりました。

このたび名簿作製にあたり担当者一同、不慣れではあります。少しでも会員の方々が日常お役に立つものを作るべく努力いたしましたもので、いささかでもご利用願えれば幸いと存じます。

作製に当り会員の皆さま、役員の方々の絶大なご協力と関係官公署及び隣接各町より寄せられましたご厚情に対し、深く感謝の意を表しまして発刊のことばといたします。